

2010年5月7日

議長、各国代表団の皆様、御列席の皆様。

被爆者をはじめとする広島市民並びに平和市長会議に加盟する約 4,000 人の世界中の市長たちを代表し、この場でお話できますことを光栄に存じます。

2 週間前、15 名の元政府首脳と 19 名の専門家や特別ゲストが参加し、「インターアクション・カウンシル」(OB サミット) の第 28 回年次総会が広島で開催され、人類はいかにすれば核兵器のない世界を実現できるのかについて討議が行われました。

その最終コミュニケで、参加者たちは、核兵器保有国をはじめとする世界の指導者たちは広島を訪問し、核兵器が引き起こした苦しみや破壊を理解し、核兵器の危険性について人々に知らしめる一端を担うべきであると切迫感を持って提言しました。ここで言及されている「世界の指導者たち」というのは、まさにここにおられる皆様方のことです。

約 4,000 人の世界中の市長たちもこの考えに賛同しています。都市や市長は過去を記憶しておくことの重要性を理解しています。というのも、我々のほとんどがかつて戦争やその他の悲劇による苦悩、苦難、苦痛を経験しているからです。そして、厳粛なる事実は、市長たち、また各都市の市民たち誰もが、全員一致で「二度と繰り返してはならない」という結論に達しているということです。

被爆者の言葉を借りれば、「他の誰にもこんな思いをさせてはならない」となります。重要なことは、ここで言う「他の誰にも」は、我々が通常「敵」とみなす人々も含め、文字通りすべての人を意味しているということです。報復ではなく、和解の精神です。

法王ヨハネ・パウロ二世はこのメッセージを神聖なものとししました。1981 年に広島平和記念公園で演説した際、法王は、「過去を記憶することは、将来に対する責任を担うことだ」と説きました。

しかし、その将来は、決定する権限をもつ皆様方全員が、定められた期限内に核兵器のない世界を実現するための交渉を速やかに始めるという選択をしなければ、決して訪れることはないでしょう。平和市長会議は、2020 年までにその目標を達成することができると確信しています。

2020年という年は極めて重要です。なぜなら、これが、現在75歳を超えている被爆者たちの平均年齢から導かれる自然の限界だからです。被爆者たちの命があるうちに、核兵器を廃絶することが我々の義務です。自らの苦しみや犠牲を通じ、核兵器が絶対悪であることを我々に示してくれた被爆者に対し、我々は核廃絶を達成する義務を負っています。

被爆者のこの願いを否定することは、彼らのもう一つの願いである「他の誰にもこんな思いをさせてはならない」という思いをも否定することになるという事実を指摘する義務を私は負っています。

決め手は時間です。タイミングを失うことが、全てを無にしてしまう可能性を持つという事実は、私たち全てが知っている通りです。飢えている人に、死後、食べ物を持って行っても手遅れです。そして、ここで問題にしているのは、人類の生存です。

それゆえ、よりよい未来、あるいはいかなる未来であれ、未来の創造に関わりを持つ組織、特に国連では、核兵器の廃絶を最優先課題にしなくてはなりません。

世界の市長たちは、核兵器のない世界を求める市民たちの心に深く根ざしている思いを、一つにまとめ、加えて、世界中の著名な指導者たちも、被爆者の切迫した思いを共有し、軍縮への新たなうねりを創り出しています。オバマ大統領はこの目標を達成するためにたゆまぬ努力を続けています。潘基文国連事務総長はこの目標に向け尽力することを約束しています。非同盟諸国(NAM)やその他多くの国々が、今回のNPT再検討会議の中ですでにその支持を表明しています。

被爆者が生きている間に、世界から核兵器を廃絶するためには、政治的意志のみが必要で、皆様方はその意志を形成する力をお持ちです。どうかその力を、将来の世代のために使ってください。世界中の4,000の都市に住む我々市民、そして特に広島と長崎の被爆者たちは、この願いを現実のものとするため、皆様方と力を合わせ、我々にできることは何でも実行する決意であること、文字通り全力を尽す決意であることを申し上げます。

力を合わせることで、2020年までの核兵器廃絶は可能です。絶対に可能です。御清聴ありがとうございました。